

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	職員皆で考えた理念をカードにして職員一人ひとりが持っています。そして理念にそったケアをしていく様心がけています		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員が集まる全体会議や申し送りの場で最低月1回は理念を復唱し理念の共有と実践を心掛けています		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念はホームに提示しているので家族には伝わっていると思いますが、地域の人にも知ってもらえるような取り組みは実施していない	○	今後は和光だより(ホームで発行している便り)に、理念を提示し少しでも地域の人に知ってもらえるような取り組みをしていきたい
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	挨拶くらいは交わしているが特別に気軽に立ち寄ってもらえる様な取り組みはしていません	○	今、現在社長が町内会の老人会などの行事に参加しているが、隣近所の人共、もっと気軽に声かけられる様していきたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地元の老人会や町内会の行事に参加しています		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	今現在は、特別地域貢献といった取り組みはしていません、しいていば地域の方を対象に和光祭り(ホームの祭り)を年1回開催している	○	今後は、何かホームで地域の方の暮らしに役立つような取り組みをホームで考え実施していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員全員で行なっている。自己評価、外部評価は社長、施設長から説明されている。昨年の外部評価で指摘されたことは一部改善されている		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進委員会の内容は介護職員にも議事録を作成しそれによって伝えられる。会議での意見はホーム全体の運営に反映されるよう努力している		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営促進会議以外での市町村担当者とサービスの質の向上で話し合うことはあまりない	○	和光で行う行事に市の職員の方も参加できる機会があれば、参加して頂き和光のサービスをより良く知ってほしい
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ホームで1名の方が利用しています	○	全職員がこれらの制度を十分に理解している状態ではないので今後、勉強会の機会を作りたい
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	全体会議で身体的な虐待の他、普段職員が使っている言葉や声がけも虐待にあたるものについて指導がされている		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者とその家族(KP)に十分な説明を行っている。契約後にでた不安や疑問についてもその都度説明し、理解を得ている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方の意見や不満はその都度聞き、改善できる点や、改善すべき又はした方が良い不満や意見についてはユニット会議で話し合っている	○	部外者の意見などを聞くための意見箱を設置しているが殆んど意見が出てこないの今後何らかの工夫をする
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の方が面会に来たときに介護職員や管理者が口頭で日々の生活状況を伝え、利用者の預かり金も残高に応じて知らせ足りなくなった場合、入金して頂き職員が管理している	○	職員の人事異動について報告をかねた説明をしていないため、今後人事異動があった場合は個々に合わせた報告をしたい
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームで苦情受付箱を設置している。又管理者や職員に不満があった場合運営に反映させるべく会議で話し合っています		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からのホーム運営についての意見は、リーダー会議や全体会議の場で発表する機会を設け反映させている		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	基本的に日中は9人の利用者様に対して4名の職員で介護に当たっている。必要な時間にユニットの職員が足りない場合は管理者やケアマネージャーがユニットの勤務に入り人員の調節をしている		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ホーム運営のため、やむえない場合は、人事異動をしています。利用者様へのダメージを考え移動してきた職員には古くからそのユニットにいる職員が付き慣れるまで指導しています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	他のホームの研修に行ったり講義を聞きに行ったりしています		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者の所へ研修会に行きサービス向上を図っています		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	年3～4回の親睦会をはじめ休憩室を確保している。昨年は職員と十分に話が出来るよう個別面談の機会を作ってくれた		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	研修会や公演があったら案内して向上心をもって働けるよう努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者と会話をし困っていることや不安なことを、その都度聞くよう努めています		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談から実際に入居し、利用開始になる日までに、何度か面接し、話し合いを実施している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族と話し合い家族が望んでいることは出来るだけ対応に答えている		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員と利用者さんと話し合いどのような事をしてほしいか、家族共話し合い工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々一緒に過ごし会話をする中で利用者さんから学んだり支えあう関係を築いている		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との情報交換をし、家族の思いを聞き一緒になって日々利用者さんを支えていく関係を築いている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者さんの誕生日に家族を呼び一緒に祝ったりホームの行事や年末年始の外泊など家族との良い関係を築くよう支援している		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔住んでいた近所の方や、親しい知人が来設されても、面会を快く受け入れている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者一人ひとりを見守り、会話をし利用者同士が関わりあい支えるよう努めています		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在はサービス利用終了と共に関係が終了しているが、一部家族からは偶に電話連絡がある	○	サービス終了後も継続した和光便りを送付し、行事の参加の誘いや、利用者、家族が気軽に遊びに来れる環境作りに心掛けたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回職員同士が利用者が暮らしやすいように話し合いケアプランを立てています		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からや、居宅のケアマネージャーから入居前より事前に、これまでの生活歴やサービス利用の経過状況等を報告して頂き、把握している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員が交代にて観察、見守りし、日々の申し送りや月に1度のユニット会議、ケースの記入閲覧にて、好み、有する力を始め総合的な把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	ケアマネージャーが中心になって利用者のケアプランを作成し作成したケアプランを家族にも観ていただき、介護計画を作成しています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1度ケアマネージャーを交えてモニタリングを行い、本人、家族の意向を伺い反映させた介護計画を作成している。体調・感情的に変化が見られる時は3ヶ月経過していてもプランの見直しを行なっている		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	心身状態や食欲、会話の内容など、個別記録は誰が見ても解りやすい記入に努め、情報を共有し介護計画の新たな気づき、見直しに活かされている	○	ケア実践中での本人の有する力や感情面の記入をもっと充実させたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族からの要望には可能な限り答えている。外食や外泊、ホームでの散髪等		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近所の保育園や学校から、子供や学生達に歌や踊りのボランティアにきてもらっている		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	グループホームなので基本的に入居中は他のサービスは利用しないが退居して、在宅に戻る際には居宅のケアマネージャーに連絡をとり、今後のサービスについて話し合っている		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今のところ地域包括支援センターと協働はしていない	○	今後本人の意向や必要性に応じて地域包括支援センターと協力していく事を検討したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>出来る限り、本人のかかりつけ医の継続を支援し、身体的に受診が困難になった際に、家族の納得の上、提携病院の受診も支援している</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に詳しい、かかりつけ医があり症状を相談したりしながら診断をあおぎ治療をしている</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>施設長も含め、3名の看護師を確保しており健康管理チェックを行っている</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時、医療機関と本人の情報を相談し合い、又家族とも情報交換をしながら早期退院できるようにしている</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>看取りは実施している。その際かかりつけ医や家族とも何度も話し合い、全員でケアをしている</p>	○	終末期に向けもっと職員全員が情報を共有し、ケアを出来るよう努めた
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度に向かい、家族の意見やかかりつけ医と良く話し合い、これからのケアに向け話し合っている。看取りは実施していて、その際も家族やかかりつけ医と相談してケアをしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>別の住まいに行く場合には、関係者間で十分な情報交換をしています</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録等の書き物には名前など書き入っていない</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>おやつの時、利用者さんに何が飲みたいか聞き、希望があればそれを提供している。何をして遊びたいかも二択にして選んでもらうようにしている</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者さんの方から何も言わないので職員の方から、散歩しますか、ボール投げをしますかと聞き利用者さんの希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみは職員が支援し、理容、美容はホームの方に来てもらっている</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の時は自分から進んでおしぼり配りや食事のセッティングをしてくれる利用者さんもおります。下膳時は職員が声をかけ一緒に食器を、かたづけたり食器洗いもする。もやしのひげ取り等も実施している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	午前、午後のおやつ時間は、くだもの、お菓子、ジュース類等いろいろ工夫して提供している。又家族の希望する飲み物を楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分でトイレへ行き排泄出来る利用者も排泄チェックを見ながら、声をかけトイレに誘導している。自力でいけない方、見守りの必要な方は時間を見ながら職員同士も確認しながら気持ちよく排泄出来るよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	当施設では月、木曜日の午前中の中の入浴を行っています。ほとんど介助、見守りの必要な方で、曜日、時間帯は決まってしまう。個欲に入れる利用者は希望時等、入浴、シャワーを楽しんでいる	○	ユニットの入浴については一部介助、入浴終了まで見守りしている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の気持ちにそって休息や入眠時間をとっています	○	夜安眠できるよう日中の生活リズム作りを考えて行く
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の出来ることをお手伝いしていただき、利用者が楽しめるレクリエーションを考えて、利用者が楽しく過ごせるよう努めております		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの利用者はお金の管理は困難な状態です。病院受診時や身の回りの買い物等は、職員が行っています。自分で預金通帳や現金の管理の出来る利用者については、金融機関へ一緒に引き出し等見守っております		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、ホームの外を散歩したり、年に数回車でドライブしたりしております		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者と家族、KPが食事や買い物に出かける事があります。ホームでも介助車両を使用して、歩行困難な方や車椅子の方でもドライブに行ってます		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたいと希望された時は、自分でかけて話をしてもらい、番号などわからない人には、職員がかけて受話器を渡し、ゆっくり話をしてもらっています		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪者が来たら、居室へ案内し、利用者と会話をゆっくりくつろいでいただいています		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ふらつき、転倒のおそれのある利用者さまには、見守り介助をして行動を禁止するような声かけをしないように取り組んでいます		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関、ユニット出入り口の施錠はしていません。ただ足腰の弱い利用者が非常階段を下ることがあり、危険な為、非常階段は鍵をかけている	○	認知症が進み帰宅願望が強く出て不穏状態の時等は、職員の見守り、連携プレーで対処していきたい
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	記録等の事務作業をしている時も、利用者の状況を確認しやすい位置におり、安全を考慮している。パートナー室で仕事をする時は、必ず他の職員が対応している		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて注意が必要な物品の保管、管理をしている。以前は居室に洗剤を置いていても大丈夫と思っても、認知症が進み、それが何かと分からなくなって来ている利用者もいる。一人ひとりの状態を把握し、危険を防ぐ取り組みをしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態はどうか、常に職員は利用者を把握し、事故が起きないように、又起きた時の対処方法を会議で学び、事故防止に取り組んでいる	○	利用者がこれからも同じ状態という事はなく、事故は起こりやすくなってきている。事故が起きる時等、今後の事故対策について検討していきたい
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に行っていないが、ユニット会議の時など、利用者の急変、事故発生時の学びは行った	○	全ての職員が応急手当の勉強会に参加し、体験、体得、習得して行きたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の自衛消防訓練に参加し、消火、通報、避難訓練を学んでいる。ホームでも利用者様も含め避難訓練を実施している		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクの大きな利用者の方の家族には、ホームからの説明と手紙での同意書を書いて頂いている。その他の方も同様ホームから説明をしている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は普段の状況を把握し、顔色、食欲、いつもと違う様子を察し、バイタルチェックを行い施設長に報告し指示を受け、状況により医療受診をしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋は一人ひとりのファイルにとじ、職員がいつでも見れるようにしている。服薬時は一人で飲める方も、口に入れて飲む方も、手のひらに渡す方も、皆飲み込むまで見守りをしている。症状の状態の変化についても、かかりつけ医に相談している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便表を作り、1日に出た分量と回数を書き、毎日確認し、水分調整や食べ物を工夫したりすると同時にかかりつけ医に相談している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に自分で出来ない利用者さんには口腔ケアを実施している。出来る方には声かけにて促している		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量をチェック表に書き、職員が情報を共有している。水分量の少ない方には負担にならないよう提供している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を利用者様と職員は実施している。職員と利用者様は外からホームへ戻ったときは必ず手洗い、うがいをしています		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	職員がふきん、まな板類を毎晩消毒し清潔にしている。冷蔵庫も点検、清掃をしている。食材は使い切るようにし、残ったものは点検し冷凍したり処分している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には、いろいろな花を植え、来訪者の方々や利用者の皆様の目を楽しませる様している。裏には入居者の方々と一緒に野菜畑を作っている	○	季節を感じてもらうのに冬には小さな雪だるまを作ったりして玄関前に置きたいと思う
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	料理の出来る匂い、食事時の音楽、テーブルに飾ってある花(生花・造花)の匂い、果物(季節の)という季節感や五感を取り入れている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関ホールにはテーブル、ソファ、椅子を置きいつでもくつろげるスペースを作っている。デイルームにはカラオケもあり皆で歌ったり、一人で楽しんだりしている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は個人の家具や寝具、ソファ、TVなどが、そのまま持ち込まれており、本人の生活していたそのままの状態を保った工夫がしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓を開けたりぬらしたタオルをかけたりにして温度や換気に努めている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	ホームそのものが、ユニバーサルデザインで設計されていて、健常者、障害者、高齢者全ての人が自立した生活を送れるよう工夫されている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	テーブル拭きや食器洗い、出来る家事は何でも利用者様にやってもらっている		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りの一部にホームとしての家庭菜園を作り、玄関前には花を植えて、利用者様が楽しめるようにしている		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ○ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ①ほぼ全ての家族 ○ ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ○ ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 ①大いに増えている ○ ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98	職員は、生き生きと働いている ①ほぼ全ての職員が ○ ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ①ほぼ全ての家族等が ○ ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)